

学校教育目標

「主体性を持ち
夢や希望と思いやりの心に
満ちあふれた生徒の育成」



希望坂(北中だより)

第2号 令和8年5月11日

みやき町立北茂安中学校

校長 原田 浩臣

<https://www.education.saga.jp/hp/kitashigeyasu-j/>

授業参観を行いました

今年のGWは5月2日からの5連休で、休みの関係でもっと長い長期連休の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。この期間中の5月1日に開催した授業参観には、昨年度より20名ほど多い約160名の保護者様に参加をしていただきありがとうございました。特に1年生の保護者の方は、授業中の姿などから中学生になっての成長を感じられたのではないのでしょうか。



課題のない学校はなく、保護者と学校と一緒に課題解決に取り組むことで、生徒の知徳体のバランスのとれた成長を支えることができます。

ぜひ、今後もPTA活動を含め、教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。

生徒の活躍を紹介します

大会名	成績	名前
4月18日 武雄少年剣道錬成大会中学生の部	優勝	北茂安中学校A
4月26日 佐賀県中学生春季剣道大会 男子団体	第3位	北茂安中学校

～素晴らしい活躍でした～

おめでとうございます！



1年生に防犯教室を実施しました

4月22日(水)に本校体育館で防犯教室を開催しました。一年生のみなさんが防犯教室を受けることは、自分の身を守るための大切な力を身につけるためです。地域で起こるかもしれない危険や犯罪のことを知ることで、毎日の生活の中で危ないことに気づき、うまく避けることができるようになります。また、SNSのトラブルやネットの犯罪についても学び、そうした被害にあわないように気をつけることができます。さらに、友だちと助け合ったり、大人に相談したりすることの大切さも学び、安心して学校生活を送るための準備ができることを期待しています。

街頭犯罪への対処法学ぶ

みやき町 みやき町の北茂安中(原田浩臣校長)で22日、新1年生を対象にした防犯教室が開かれた。生徒約90人が、佐賀県警の委嘱を受けた防犯アドバイザーから、街頭犯罪への対処法などを学んだ。

町内の平尾昌晃さん(66)と鳥丸鶴一さん(46)が講師を務めた。「護身術を知っていれば気持ちに余裕が生まれ、逃げるチャンスが増える」と、身を守るすべの大切さを語った。

北茂安中で防犯教室

「靴のかかとを踏んでいると、スリッパと同じなので逃げられない」と身なりについて助言。知らない人に声をかけられたら相手との間に自転車を挟んで安全を確保し、不審者には自転車をぶつけて逃げられることを説明した。腕をつかまれた際に外す技術も伝授した。

高口千慧さんが「もしもの時は習ったことを実践して命を守る行動をしたい」とお礼を述べた。教室は2000年から毎年開いている。

(古賀真理子)



不審者に腕をつかまれた時の対処法を学ぶ生徒＝みやき町の北茂安中

(佐賀新聞4月26日)

交通安全教室を実施しました

5月7日（木）に本校運動場で交通安全教室をおこないました。その場で、鳥栖三養基地区交通安全協会より「自転車のルール遵守とマナーアップモデル校」の指定を受け、3年 益田隼希 さんが指定書を受け取りました。そのあと、鳥栖警察署・JAさが・JA共済連佐賀様のご尽力で生徒は本物のスタントマンによる事故再現を目の前で見ることができました。生徒も最初は少しワクワクしていた様子でしたが、スタントマンが自転車で飛び出した車にぶつかる場面を演じた瞬間、運動場の空気が一気に張りつめました。衝撃音とともに倒れる姿は迫力があり、見ているだけで胸が苦しくなった生徒もいたのではないかと思います。

その後、解説の方が、並列運転・二人乗り運転・傘さし運転・スマホを操作しながらの運転・イヤホンで回りの音を遮断した状態の運転などによっておこる事故の様子やヘルメットや反射材の重要性を説明してくれました。たった一つの交通違反や確認不足が大きな事故につながることを、そして自分の身を守るためにできることを丁寧に教えていただき、普段何気なく通っている道でも、危険は突然現れるということを中心に刻んでほしいと思います。

今回の交通安全教室は、ただの授業ではなく、命を守るための大切な学びであり、自転車に乗るときも歩くときも、今日見た光景を思い出しながら、周囲をよく見て慎重に行動してほしいと思います。（佐賀新聞5月10日）

みやき町の北茂安中の交通安全教室が開かれた。スタントマンが自転車の危険な運転を実演して、事故につながる状況を再現した。全校生徒約270人が、交通ルールを守る重要性を再認識した。

同校は生徒のほとんどが自転車通学という。スマホ操作、傘差し、並列走行など危険な運転を示し、「ルールを守れば、ルールが守ってくれる」と助言した。

自転車事故の怖さ、間近に
スタントマン実演 北茂安中で交通教室

事故の再現を通して、自転車の正しい乗り方を学んだ交通安全教室＝みやき町の北茂安中

自転車加害者となる死亡事故の事例も紹介した。ベビーカーを押す父親に気付いて車が横断歩道前で停止したが、自転車は止まらず、赤ちゃんの死亡につながった様子が再現された。

16歳以上が自転車で交通違反をした際、反則金納付を通告する交通反則切符（青切符）制度が、4月から始まったことについての説明もあった。

生徒代表の古賀夏蓮さん（3年）は「学んだことを生かし、交通安全に気をつけて乗りたい」とお礼を述べた。教室は県警本部と鳥栖署の協力で行われた。JAさが、JA共済連佐賀が開いた。教室は本年度、今回を含め県内で4回を予定している。

また、鳥栖署と鳥栖三養基地区交通安全協会が、同校を本年度の「自転車のルール遵守とマナーアップモデル校」に指定し、同日、指定書を送付した。（古賀真理子）

「子育て」は「親育て」の気持ちで（「親」を「教師」に置き換えて・・・）

先日、本校で教職員に以下のような文章を配布しました。

生まれたとき子供の視界にあるのは、親自身と親の作り出す世界である。子どもにとって親が全てです。言葉も話せない段階から、子どもは親の言うことの30%を学び、親のすることの70%をまねるそうです。だからこそ、昔から子育てには親の生き方が問われると言われていています。



「子育て」は「親育て」
この世で最もごまかしがきかないのがわが子であろう
それだけに親自身が未完成の自分を見つめ大いなる完成へと挑戦する姿に子どもは、
自然のうちに最も大切な何かを学んでいく
子どもは親の背に学ぶという
しかし誰も自分の背中は見えない
見るための鏡が子どもである
その意味では子どもは自分を磨いてくれる
ありがたい存在であり
「子育て」は「親育て」でもあるのではないだろうか



この文章の「親」を「教師」に、「子ども」を「生徒」に置き換えてみると

「教師」が愚痴ばかり言っていると「生徒」は愚痴ばかり言う。「教師」が前向きだと「生徒」は前向きになる。「教師」が辛い顔をしていると「生徒」は辛い顔になる。「教師」が笑顔だと「生徒」は笑顔になる。「教師」が誰かを批判すると「生徒」も誰かを批判する。「教師」が誰かをほめると「生徒」も誰かをほめる。

北茂安中の教職員も自分自身の姿を「生徒」を通じて感じていきたいと思っています。

